



「年を取ると、何も良いことがないわ」とは、よく聞かれるお年寄りの愚痴である。そろそろ私も70代に手が届く年頃になってきた所為か、つい頷きたくなる実感のこもった言葉である。

「良い事」って？ 漠然とした言葉にほんとうはどう願ってよいのか分からないのだが、何となく分かるような気がしてしまうのだ。体力も、知力も衰え、自分でも情けないと思うことがしばしばである。だからと言って若い時には何か良いことがあったのか、と思い起こしてみても、特別これといったことは何も思い当たらない。その時々不平、不満、愚痴を言いながら過ごしてきたように思う。そう思うとこれはどうやら年の問題でもなさそうな気がしてくる。「良い事」それは自分の思うように都合よく生きられることではなく、**今ある、与えられたあるがままの自分を喜ばせていただく(智慧をいただく)を開かせていただくことが**、このもんやりとした思いから抜け出し、すべての事が自分の人生にかけがえのない「こと」として受け止められてくるのではないだろうか。

確かに年と共に不都合なことが多くはなるが、その不都合が、私が私として喜びをもって生きられる機縁となってくるのではないかと考える、今日この頃である。

実行努力のつけとめ

森 光明

仏教に親しむようになって、ずーと疑問に 思っていることがあります。それは実行努力を軽視する風潮です。

実行・努力

実行努力は、社会通念として大切な徳目にあげられていますが、真宗の世界では、自力だから駄目という認識が一般化しているように思えるのです。たしかに自力の実行努力にむきまわしては、真実の信心から遠ざかっています。

一方で 念仏申させ下さる「こと」についていいますが、これは念仏の本来的なすがたを表すことばです。これに従えば 他力の実行、他力の努力「もあり得るわけです。」

実際経験からも、ほめ励ましの言葉をかける場合、また仏の慈愛を感じ取ることを心がける場合、心遣いについては 実行させて下さる、努力させて下さる「と他力思考へのつけとめることも出来ると思えます。

どうまでも心のうちに思う「こと」ですから、他力の考えに切り替えれば、実行努力も生きてくるのではないのでしょうか。

新発見誕生

この春、若院の妻である麻梨絵が、僧侶としての第一歩を踏み出すお得度を受けることになりました。また四月からは、さらに教師資格を取得するため、大学へ入学することになりました。

住職といたしましたしては、本人からの思いもやらぬ申し出を誠にありがたく尊い事として受け止めております。今後、若夫婦が共に力を合わせ、よりいっしょに開かれた寺としての歩みを続けていってほしいことを願っております。皆様方のお導きの程よろしくお願いいたします。



岐阜県大垣市備前町の光受寺で、「飛龍梅」と呼ばれるしだれ梅が見ごろとなり、多くの観光客らでにぎわっている。高さ約5mで、太くねじれた幹が大地を蹴って飛び立つ竜に似ていることから名付けられた。樹齢七十数年で、それほど有名ではなかったが、徐々に知れ渡り、今では全国から訪れる人の姿もある。

降り注ぐ 甘い香り 大垣でしだれ梅見ごろ

梅見に訪れた同県揖斐川町の西田幸恵さん(28)は「境内に入ったときの香りに驚いた。こんなに大きい梅の木を見るのは初めて」と言いながら笑顔で写真を撮影。柴間邦守住職(68)は「今年は天候に恵まれ色づきがいまい」と話していた。

23日から枝切りが始まるため、22日まで観賞できる。



定点観測(2月12日~3月16日) 満開は16日

飛龍梅は**形と色**の変容を、その時々楽しませてくれる。

光受寺にお越しただけの方には、再来者が多い。もちろん初めてと言う方も多いが、同じシーズンに何度もお越しただけの方も決してめずらしくはなかった。それだけ変容する梅の姿に惹きつけられるものがあったからなのだろう。

例年よりも色合いが美しく、ご来寺いただく方も北陸、関西方面からと、その範囲も年々拡大している。テレビや新聞、雑誌の影響なのだろうが、多くのご縁をいただけたことだ。

光受寺門徒会役員改選

引き続きお世話になることになりました。

山崎 武志様 光受寺 責任役員)

馬淵 則昭様 光受寺 門徒総代)

光受寺の代表として、今後二年間、第十一組の門徒会会員として活躍いただきます。

春の永代経

お天気にも恵まれ、多くの方にご参詣いただきました。お手伝いいただいた方の中には、初めての方もお見えになったようでしたが、門徒というつながり、ご縁の中で和やかに御奉仕いただけたように思いました。

棚橋めぐみ先生の分かりやすい御法話は、大変好評でした。次回もぜひと言う声も聞かれ、お願いした甲斐があったと喜んでいきます。

やらなければ失敗はない。

お風呂の水を止めることをいつい忘れて水にしてしまうことがある。深夜電気で沸かした湯がなくなってしまうのだ。青ざめるがどうしようもない。自分一人なら風呂に入るのをあきらめれば済むことだが、妻は納得しない。何やかんわの「。これが怖いのだ。

私の役目だから仕方がないが、やらなければ失敗はないわな。逆の立場で何やかんわの「と聞いてみたいところではあるが、言えなこのが悔しいのだ。